

今を未来に

最近の子どもたちの様子から

【保育園・幼稚園の年長さん給食試食会開かれる】11月1日

毎年、自然教室へ5年生が行っている時に、保々保育園・保々幼稚園の年長さんと呼んで、1年生といっしょに給食を食べる「給食試食会」が開かれています。保々保育園・保々幼稚園の年長さんにとっては、はじめて1年生の教室で机・椅子があって、そこで班の形を作ってから給食ということになります。この日のメニューは小型玄米パン・牛乳・五目うどん・高野豆腐の揚げがらめだったそうです。各クラス6グループに分かれて、食器の片づけ方や牛乳パックのたたみ方を教えたり、トイレを案内したり、「かっこいい1年生」だったそうです。次回の交流会は、11月26日に開かれます。年長さんたちもきっと楽しみにしてくれていると思います。



【保々地区文化祭 4年生合唱で参加】11月4日

4日(日曜日)に行われた保々地区文化祭に、4年生は合唱を披露するというので参加しました。その前々日に、30分休みを使って小学校の体育館で、5年生(自然教室で留守)以外の学年の子に聞いてもらったそうです。その時はとっても大きな声で歌えていたらしく、ちょっぴり自信を感じて臨んだ発表でした。

ところが、曲のはじめが優しく入る雰囲気もあるのですが、必要以上に遠慮し合って歌い出す子どもたちでした。おそらく、学校では聞きに来てくれた子たちが静かに聞いてくれていたのだと思います。学校紹介が始まって、なかなかシーンとした雰囲気にはなりませんから、歌い出しのところは大きな声で歌うには声が出しにくかったのだと思います。

この経験は、三泗音楽会では聞く側にいる時、自分たちはどんな姿勢で聞くようにしたらよいのか、歌う時には第1ホールはふれあい会館の10倍ほどの広さがありますから、どの程度声を張り上げる必要があるかを考える機会にはなったと思います。

もちろん、この日は9人の子が欠席でしたから、多少心細く感じたのだとも思います。その意味では、17日(土)全員が出席できることが大切だとも思います。



【三重県教育委員会学力向上プロジェクトチームから】11月5日

長年、苦勞(?)をしてきた学力・学習状況調査の点数に現れる学力の結果が、全教科(国A B, 算A B, 理科)全国平均を越えたことから、ここ数年の取り組みを県教委の学力向上プロジェクトチームの指導主事が来校し、聴き取りに来校しました。朝の基礎学力充実タイム・読書活動、授業づくり、算数的用語・理科学的用語の定着、基礎学力となる計算や漢字の学習、家庭学習など、地道に積み重ねてきた取り組みをお話させていただきました。

話をしているうちに、改めて子どもたちと保護者の皆様のご理解・ご協力の上に、学年によって違いはあったものの右肩上がりに結果が出せてきたことを、理屈抜きに喜ばせてもらいたいと思いました。また、人権を大切にする学校として、子どもたちに学力を付けることは、子どもたちの自己実現の一歩となり、人権と結びつく取り組み(昔から、進路保障は同和教育の総和と言われていたことを思い出します)なんだと、職員が努力を続けてくれたことも、校長として忘れてはならないと思いました。

【授業実践研修会が本校で開かれる】 11月6日

この日は、5年B組の算数の授業公開を行い、県の授業実践研修会が本校で開かれました。単元は「比べ方を考えよう」でした。単に教科書通りに数字を均すために「平均」を求めるというのではなく、そもそも「均す」ってどんなことなのかを考えることができる授業にしようと、中谷先生と磯村先生の2人がチームで授業を進めました。目盛りで平均を求めて多い・少ないを比べようとする子が多い中で、つぶやきとしてこんな言葉がありました。「先生、一目盛りは何ml?」授業者は、「プリントに書いてあるよ。」と返していました。子ども一人ひとりに考える力（自己解決能力）を育てるために、聞かれたことに指導者が直球で答えないということは大切なことです。その場は、その返し方で正解かと私も思いました。しかし、意外に目盛りを均す（目盛りの平均を求める）という考えから抜け出ることができない子どもたちの姿が続き、授業を振り返ってみると、あのつぶやきの時に「なぜ、何ml かって必要なの?」と、みんなに聞こえるように返していたら、授業の展開は大きくかわっていたかもしれないと、気づきました。これからも、授業の中でどんなねらいを持って、子どもとどんなやりとりをしていくと子どもたちに力を付けていくことができるのか、これからも考え続け、よりよい授業づくりを学校全体でも進めていきます。



【3年生社会見学】 11月8日

3年生は初めての社会見学に行ってきました。最初に行ったのは四日市港ポートビルです。ポートビルは、三重県で一番高い建物で、四日市港開港100周年を記念して、地上100mの高さの建物です。子どもたちは、地上90mにある14階の展望室で、四日市港についてシアターで説明してもらったあと、クラス別に四方の景色を確かめました。四日市ドーム、四日市の市街地、石油化学コンビナート、霞埠頭、コールセンター（石炭を貯めている場所）、高速道路や国道、近鉄線・JR線、内陸部にある大きな工場、桑名市・名古屋市方面などの景色を確かめました。天気がよくて逆に遠くの景色がかすんでしまいましたが、初めてという子も多くいて、四日市市の町の広がりや広さがよくわかる見学となりました。



次に、水沢にあるふれあい牧場に行きました。ふれあい牧場の上に広がる展望広場に上がって、山側から見る景色を確かめました。遠くは鈴鹿市、鈴鹿山脈の山々が見られ、子どもたち同士行ったことがある経験を話していました。そして、その後牧場の方にふれあい牧場で飼っている牛の数や種類、えさはどんなものを食べているのか、働いている人の思い等を教えていただき、牛を見させてもらいました。ここで育てられた牛が各酪農家に戻され、そこで搾乳されたミルクが、その後四日市酪農さんに送られ、毎日飲んでいる牛乳になっていることを教えてもらって、四日市酪農さんに向かいました。四日市酪農さんは、現在4軒の農家さんからミルクを仕入れ、低温殺菌という方法で、できるかぎりおいしく味わえるようにして、学校給食へ牛乳を提供してもらっている工場です。実際に工場内に入れてもらって、牛乳パックが機械で形が作られ、牛乳が入れられていく様子を見させていただきました。また、少ない従業員さんで、確実に学校給食に必要な牛乳を確保されている苦労についても感じることができました。



3年生の子にとっては、はじめての社会見学でしたが、どの子もメモをよくとる姿に感心しました。また、一人ひとりの子が、お世話になっている方にお礼の言葉が言えるところも、3年生の子どもたちのいいところだなあと思いました。